

---

# 雷のよるに

ふる一つ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雷のよる元

### 【著者名】

Z9590C

### 【作者略】

ふるーつ

### 【あらすじ】

タイトルの通り、雷の夜の話です。.setGeometryでコナンに泣き  
つく蘭。そして、なんだかんだで結局蘭にはかなわないコナン。安  
心して読めるほのぼの系です。

毎週<sup>まいしゅう</sup>から降り始めた雨は、止む<sup>やむ</sup>気配もなく。…とこ<sup>うか</sup>、勢いは明らかに増していった。

そんな天氣にも関わらず、小五郎は麻雀の約束があるとかで、午後に出かけていった。

『ちよつと、ドシャ降りになるかもよ~。わざんと歸つてくるの?』

『ああわざんと歸るよ。んじゃな、留守番<sup>りすばん</sup>しどけ』

…と呟つておきながら、つこわつきかかってきた電話では、  
『悪い、いっちがちよつと盛り上がつちまつてな。ビーセ雨もすげーし、一晩<sup>いちばん</sup>に止まつてくれ』

わよめいほかい  
朝令暮改<sup>さよめいほかい</sup>というかなんというか。それでも、蘭の大嫌いな例のモノがきそうだと思つたら、こつもは無理してでも帰つてくる。こんなにあつたり『悪い』と電話を寄<sup>よ</sup>じたのは、この少年がいるからだと、蘭は思つ。

「あーあ、なんかす」「……来そ<sup>うだな</sup>ー」

何が、とはあえて言わない。が、その氣配は段々近づいていた。

そして…。

カツと、真っ黒な空の一点が閃いたと思つたら、10秒ほどして、ソレが始まった。

ドォン…ドロ<sup>ドロ</sup>ドロ…

「わやあつー」

思わず、口<sup>くち</sup>を抱えて悲鳴をあげる蘭。途端に、口<sup>くち</sup>の体温

が少々上がる。

「だ、大丈夫だよ蘭姉ちゃん。まだずっと遠いし……」

「で、でも大きかったよ。どうしよう……このままじゃ寝られないとよ」

ちなみに、只今午後10時。小学生ならとつて寝ているべき時間。そして、ふたりとも風呂は無事に（？）済ませていたのだった。

「……」

だからって、どうしようってんだ。まさか、いつかみてーと一緒に寝るとか言つんじゃねーだろーな。

なんていう「ナンの心の声が聞こえる訳もなく、本気で怯えている蘭が、まさにど真ん中をついた。

「……ねえ、コナン君？一緒に寝てあげよっか？」

「あげよっか、って。一緒に寝てほしいのは、蘭姉ちゃんの方ですよ」

コナンが訂正を入れる。蘭は後ろからコナンを抱えているので見えないはずだが、口調で大体通じたはずだ。

「だつて、雷苦手なんだもん……」

その可愛らしい言い草に、コナンは思わずくすっと笑った。また、遠くでドンという音が聞こえる。

「まあ、どーしても一緒に寝てほしいなら、嫌とは言わないけど？」

正直、蘭がすぐ近くにいる状況で、ぐっすり寝られるなんて自信は全然ない。

ただ、よく推理小説を読みながら夜更かししているので、多少の睡眠不足ぐらいなら、別になんてことはない。

何より、蘭の雷嫌いは、幼い頃からのもの。言つなれば、筋金入りなのだ。

それに

。

「…僕が、今夜だけでも新一兄ちゃんの代わりになれるなんなら、まあ、いいよ」

蘭が、はつとするのがわかる。

「それに、新一兄ちゃん、まだ帰つてきてくれないし。今夜一晩ぐらいい、僕が蘭姉ちゃん独り占めにしてもいいよね」  
そこまで言つて、笑顔で振り向いた。  
鈍い蘭には、これくらい言つたって気付きやしない。

「コナン君……」

言葉を失う蘭に、コナンはさりにニコッと笑つた。  
この会話だけでも、多少なりと蘭の気が雷からそれでいていいけど。  
そんなことを頭の片隅で考えてもいた。

「どうする？ 蘭姉ちゃん」

いつも、こんな会話になると主導権をかっさらわれるコナンだが、  
今夜だけは何か調子がよかつた。

「…ありがとう、コナン君」

蘭はぽつりと言つて笑つた。相変わらず、外の音に怯えながらの笑顔だが、他ならぬコナンには、花の蘭よりも綺麗な笑顔に見える。

「じゃあ、コナン君の布団、私の部屋に運ぶね」

そう言つて、心なしか元気そうに部屋を出て行く蘭を見送ると、  
コナンは軽くため息をついた。

「…………」

「……結局、勝つたんだか負けたんだか……」  
どうにも、勝った気がしねえ。というか、オレがあいつに完全勝利できる田なんて来るのかね。

そして予想通り、翌朝。コナンは寝不足のまま、台風一過のよくな清々しい夜明けを迎えたのだった。

(後書き)

大して斬新でもない、雷ネタです。  
この間、ふつと書きたくなつて、ほとんど何も考えずに書き始め、  
超思いつきで書き上げました。

書き終わつてふと「この状況で、コナンがわざわざ新一の名前出す  
かなあ？」と思つたんですが、そこは無視しました（自分の意見の  
くせに）。だつて、ただ蘭が怖がつてる話じゃつまらないし・・・。  
これからは、短編でも多少ひねつた話を考えたいと思います。

あ、ちなみにタイトルは「あらしのよみ」のもじりです（タイト  
ルだけ。映画は見た事ないです）。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9590c/>

---

雷のよるに

2010年10月10日04時04分発行